

令和4年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

1 学習指導について

前年度の改善点の指摘を受け、引き続き生徒の学ぶ意欲を向上させる取組や意見交換を中心とした授業への質の転換を図った。生徒数全体では前年と同じ96%が「課題について自分で言ったり、友達と考えたりする時間が授業中にある」という評価であるが特に受験を控え知識偏重になりがちな3年生が前年比4%伸びており受験勉強にも質的転換を図ろうとする教員の姿勢を示している。

2 豊かな人間関係づくりと進路指導（キャリア教育）

豊かな人間関係の育成に欠かせない地域とのつながりについて、コロナ禍で停滞していた地域人材活用を教育活動に活かす項目について前年から5%の伸びを示しており、元々地域との関わりが深い本校の教育活動の回復への兆しがみえる。また、令和4年度か復活した職場体験や職業講話を通して、自己肯定感や自己有用感の向上が図られた。「キャリアパスポートに書いた目標を考え行動する」項目が7%、「進路、将来について考える授業がある」項目が9%、「進路や将来の仕事に関する情報提供がある」項目が5%、それぞれ増加していることから改善傾向にあることが示されている。

3 特色ある教育活動および生活指導について

- (1) 本校の特色であるN I Eについて、過去5年間の数値の伸びがなかなか向上しないと指摘が昨年度もなされたが、各教室に配達されている新聞記事の内容を日直が発表すN I E日直の効果が表れ、「新聞に興味をもち自分の考えをもつようになった」が前年度比7%増という成果が得られた。引き続き、生徒や保護者にN I Eの効果検証を実施していくことを続けたい。
- (2) 生活指導については3項目とも、前年と同様、生徒と保護者ともに90%が肯定的評価を得ており、前年から引き続き高い数値を維持している。同時に「日頃からあいさつを心がけている」が9割前後で推移していることを受け、あいさつへの評価はさらに高くなってもよいのでは、という意見も聞かれる。今後は、校内のあいさつだけでなく学舎で取り組む「あいさつ運動」についても、生徒主体の取り組みに加え、校内や校外での日常のあいさつをキャリア教育と関連づけて生徒に捉えさせ、自信をもって世の中で生きていける指針となれるよう価値付けを行っていく必要がある。